

平成十六年度会員業績一覧

(会員諸氏の昨年度の研究業績を本人の自己申告に基づき、掲げる。体裁は統一を心がけたが一部異なるものもある。)

- 会田 実 『『曾我物語』その表象と再生』(笠間書院 2004.11)
- 生駒 哲郎 「山林修行の道筋」(日本の名僧6『重源 旅の勸進聖』第3章 吉川弘文館 2004.8)
「松尾社一切経『大方広仏華嚴経』(六十華嚴)の書写・校合・改装」(『寺院史研究』8 2004.8)
「馬鳴菩薩の信仰」(『養蚕の神々』安中市ふるさと学習館(安中市教育委員会文化振興課) 2004.10)
- 市川 浩史 『日本中世の歴史意識 -三国・末法・日本-』(法蔵館 2005.1)
- 伊藤 清明 「関東における鎌倉時代の蹴鞠について -源頼家期を中心にして-」(『山形大学大学院社会文化システム研究科研究論文集』7 2005)
- 伊藤 正敏 「叡山門前としての京」(『延暦寺と中世寺社』法蔵館)
「「錢甕」考 -中世出土銭に関する一史料」(『出土銭貨』16)
- 稲城 正己 「菩薩のジェンダー -菅原道真の願文と女人成仏-」(朝枝善照先生華果記念論文集刊行会編『仏教と人間社会の研究』永田文昌堂 2004.3)
「書評:福島栄寿著『思想史としての「精神主義」』-方法論的批評-」(『佛教史学研究』47-1 2004.7)
- 彌永 信美 「立川流と心定『受法用心集』をめぐって」(『日本仏教総合研究』2 2004)
Tantrism and Reactionary Ideology in Easern Asia: Some Hypothesis and Questions, *Cahiers d' Extrême-Asie, Moines, rois et marginaux, Etudes sur le bouddhisme médiéval japonais*, vol. 13

(2002-2003)

「イメージの思考力—仏教図像をとおして」(池上良正・小田淑子・島菌進・末木文美士・関一敏・鶴岡賀雄編『岩波講座 宗教』5)

『言語と身体—聖なるものの場と媒体』(岩波書店)

「<近代>世界と『東洋／西洋』世界観—ヘーゲル・内村鑑三・『近代の超克』思想を中心として」(高知尾仁編『表象としての旅』 東洋書林)

上島 享 「中世国家と寺社」(歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 第3巻 中世の形成』 東京大学出版会)

「日本中世の神観念と国土観」(一宮研究会編『中世—宮制の歴史的展開 下 総合研究編』 岩田書院)

「密教諸修法の構成と歴史的変遷に関する基礎的考察」(覚禅鈔研究会編『覚禅鈔の研究』 親王院堯榮文庫)

「随心院と随流の確立」(荒木浩編『小野随心院所蔵の密教文献・図像調査を基盤とする相関的・総合的研究とその探求』 大阪大学)

上田 純一 「伴天連追放令の起草」(『政界の導者 天海・崇伝』日本の名僧15 吉川弘文館 2004)

「禅寺が育てた京の味」(『京の旨味を解剖する』人文書院 2004)

「中世大宰府の宗教」(『太宰府市史』通史編Ⅱ 太宰府市教育委員会 2004)

「巡礼から観光へ—観光史的に見た巡礼の旅—」(『京都観光学のススメ』 人文書院 2005)

大久保良峻 編著『山家の大師 最澄』(吉川弘文館 2004)

「天台本覚論 —証真説に着目して」(院政期文化論集 四『宗教と表象』 神話社 2004.10)

二 「一念成仏について」(早稲田大学大学院文学研究科紀要第50輯 2005.3)

尾崎 勇 『愚管抄の創成と方法』(汲古書院 2004.12)

『支那革命外史』と『愚管抄』 —靈告と成立過程との接点

一) (『熊本学園大学 文学・言語学論集』11-1 2004.7)

- 梯 信暁 「『摂津名所図会』にみえる金龍寺の記事について」(大阪府文化財センター『2002年度共同研究成果報告』2004)
「院政期の浄土教」(院政期文化論集4『宗教と表象』森話社 2004)
「書評: Paul GRONER: *Ryogen and Mount Hiei, Japanese Tendai in the Tenth Century*」(『日本仏教総合研究』2 2004)
- 桂島 宣弘 「民衆宗教の宗教化・神道化過程」(『日本史研究』500 2004.4)
「近代宗教制度の暴力」(『岩波講座 宗教』8 岩波書店 2004.9)
「近代における〈宗教化〉体験」(高橋文博他編『近代日本の成立』ナカニシヤ出版 2005.1)
「国学へのまなざしと「伝統」の創造」(『歴史評論』659 2005.2)
- 神居 文彰 「木々への想い」(『木の文化フォーラム』東京芸大文化財保存学一彫刻研究室一)
「文化への延長・記憶そして畏れ」(『MUSEUM NET STATION』内田洋行)
「日本的なものとしてのスピリチュアルケア」(『テキスト・スピリチュアルケア』2 日本在宅ホスピスケア研究会)
「頼政と通円への象面」(廣田鑑賞会第2回パンフレット)
「日想観における生命思想」(高橋弘次先生古稀記念論集『浄土学佛教学論叢』)
「非日常の伝承」(『関山』11)
「反京都学」(『創造する市民』82)
「暖流」(京都新聞 福祉のページ 2004.5～2005.3連載)
- 苺米 一志 『荘園社会における宗教構造』(校倉書房 2004.4) 三
「荘鎮守における組織と祭祀 ―筑後国瀬高下荘鷹尾社を素材として―」(『民衆史研究』68 2004.11)
「亀谷禅尼の軌跡 ―下野国那須上荘横岡郷の領主―」(『那須文化研究』18 2004.12)

- 北川 真寛 「『溪嵐拾葉集』にみる東台両密の交流 —特に如意宝珠を中心として—」(『密教学研究』36)
「古義真言宗の近代社会事業史概観」(『日本仏教社会福祉学会年報』35)
「『溪嵐拾葉集』における禅宗観について」(『印度学仏教学研究』53-1)
- 工藤美和子 「平安期在家仏教者の思想と信仰—藤原道長の願文を中心に—」(『日本仏教総合研究』2 2004.5)
「大江匡房の本地垂迹思想—『江都督納言願文集』をめぐって—」(『印度学仏教学研究』53-1)
- 小島 裕子 「仁和寺理趣三昧と乙前の没年 ——法会資料から『梁塵秘抄口伝集』巻第十をよむ——」(『日本歌謡研究』44 2005.3)
「大仏開眼供養復原(二) ——法会次第書の翻刻および解題——」(『勸修寺論輯』2005.3)
- 小山 昌純 「源信撰『阿弥陀経略記』に関する考察 —東京大学総合図書館所蔵写本を基に—」(『西山学会年報』14 2004.11)
- 佐々木 徹 「戦国期仏教教団と奥州—曹洞宗教団の動向を中心に—」(大石直正・小林清治編『陸奥国の戦国社会』高志書院 2004.8)
「平泉諸寺社・伊沢正法寺と中世社会—南北朝期奥州葛西領における地域社会秩序の構造転換—」(『民衆史研究』68 2004.11)
- 澤 博勝 共著『街道の日本史28 加賀・越前と美濃街道』(吉川弘文館 2004.5)
「地方小城下町の宗教世界—越前勝山城下町を対象に—」(『福井県歴史の道調査報告書』5 2005.3)
「書評:稲木正巳著『〈語る〉蓮如と〈語られる〉蓮如』」(『宗教研究』78-1 2004.6)
「書評:長谷川匡俊著『近世の念仏聖無能と民衆』」(『歴史評論』658 2005.1)
「書評:杉田善雄著『幕藩権力と寺院・門跡』」(『日本史研究』511 2005.3)

- 東海林良昌 「九条家の信仰世界（一） 九条兼実 ―宿業と乱世と往生―」
（『佛教文化研究』47・48 2004.3）
「九条家の信仰世界（二） 九条兼実 ―帰依これふかし尊崇尤切也―」（『佛教論叢』49 2005.3）
- 末木文美士 『明治思想家論』（『近代日本の思想・再考Ⅰ』トランスビュー）
『近代日本と仏教』（『近代日本の思想・再考Ⅱ』トランスビュー）
- 菅原 信海 「山王一実神道と天海」（『日本の名僧15 天海・崇伝』吉川弘文館 2004.7）
- 善 裕昭 「安居院澄憲の善導受容をめぐって ―『法華経并阿弥陀経釈』を中心に―」（高橋弘次古稀記念『浄土学仏教学論叢』2004.11）
- 曾根原 理 「栄心と天台宗談義所」（河音能平・福田栄次郎編『延暦寺と中世社会』法蔵館）
「金沢東照宮と寛永寺常照院」（『日本学研究〈金沢工業大学日本学研究所〉』7）
「徳川家康年忌行事にあらわれた神国意識―家光期を対象として―」（『日本史研究』510）
- 高橋 秀城 「頼瑜周辺の言談―『真俗雑記問答鈔』を手がかりに―」（『日本文学研究』44 2005.2）
「『真俗雑記問答鈔』にみる招魂法と則清入道の女について―西行との関連から―」（『密教学研究』37 2005.3）
「智積院蔵『真俗雑記問答鈔』について」（『智山学報』54 2005.3）
「随心院蔵『源夢物語』翻刻」（『随心院聖教と寺院ネットワーク』2 2005.3）
- 田村 圓澄 『法華経と古代国家』（吉川弘文館 2005.3）
- 津田 徹英 「親鸞晩年の聖徳太子観と東国真宗門徒の太子造像」（『日本仏教総合研究』2 日本仏教総合研究学会 2004.5）

「美術史料紹介・東寺観智院金剛蔵本（建武二年写）『諸説不同記』 解題ならびに巻第三・遍知院 翻刻・校註・影印」（浅沼桂子、佐竹行彦、高橋かおり、東條由紀、林彩子、原浩史、山中麻里子と共編 『史友』 37 青山学院大学史学会 2005.3）

「古代・中世神像関連史年表」（『神像の美 すがたなきものの、かたち。（別冊 太陽）』 平凡社 2004.10）

寺尾 英智 寺尾・北村行遠編『反骨の導師 日親・日奥』日本の名僧 14
（吉川弘文館）

「日蓮宗の展開」（夷隅町史編さん委員会編『夷隅町史 通史編』千葉県夷隅町）

内藤 榮 共著『持戒の聖者 叡尊・忍性』 第四章「叡尊の舍利信仰と宝珠法の美術」（吉川弘文館 2004.11）

「千躰寺紫檀塗螺鈿厨子について（上）」（『鹿園雑集』 6 奈良国立博物館 2004.3）

「金色堂と舎利法」（『佛教藝術』 277 毎日新聞社 2004.11）

「鏡箱の指孔」（第56回正倉院展目録 奈良国立博物館 2004.10）

永井 晋 「金沢貞顕書状概論」（『鎌倉遺文研究』 13）

「倉栖氏の基礎的研究—地元で忘却された北条氏被官像の再構築—」（『茨城史林』 28）

「金沢貞顕書状の料紙について」（『金沢文庫研究』 313）

西村 玲 「聖俗の反転—富永仲基『出定後語』の真相—」（『宗教研究』 342 2004.12）

「普寂の実践観」（『印度学佛教学研究』 53-1 2004.12）

Niels Guelberg 「近世の光明真言信仰資料（その一）—鏡寛著『光明眞言得道安心鈔』（正徳三年《一七一三》版）—」（『人文論集』 43 2005.2）

「西田とホルデー」 （『西田幾多郎全集月報』 岩波書店 2005.3）

- 野口 圭也 「『胎蔵マンドラ』の名称について(上)」(『佛教文化学会十周年・北條賢三博士古稀記念論文集 インド学諸思想とその周延』山喜房佛書林 2004.6)
 「聖衆來迎寺本『六道絵』中『阿修羅道幅』について」(『平安仏教学会年報』3 2004.12)
- 野村 卓美 『中世仏教説話論考』(和泉書院 2005.2)
- 花野 充道 「仏教思想の本覚的展開」(『第一回中日仏学会議論文集』)
 「日蓮教学と天台教学の比較」(『比較仏教文化国際学術検討会論文集』4)
 「道元と天台本覚思想」(『印度学仏教学研究』53-1)
- 原 克昭 「〈類聚〉の資料的意義—附・『類聚神祇本源』引用書目総覧・簡明考証—」(真福寺善本影印叢刊『類聚神祇本源』共編 臨川書店)
 「室町期吉田家の『日本書紀』進講史・断章(兼俱・兼右講二題)—附・兼満と日本紀～確執と出奔のあわいより—」(『むろまち』9 室町の会)
- 平野 多恵 「明恵『遣心和歌集』の撰集志向—「遣心」「安立」再検討—」(『日本文学』2004.6)
 「明恵の和歌と思想—「深位、菩薩」としての詠歌—」(『国語と国文学』2004.10)
 「明恵と尼僧たち」(奥田勲編『日本文学 女性へのまなざし』風間書房 2004)
 松尾剛次監修『興正菩薩御遣戒聴聞集』研究会訳編『興正菩薩御遣戒聴聞集』訳注研究(『日本仏教総合研究』2)
- 藤井 佐美 「唱導の経釈とヨミ—『説経才学抄』を中心として—」(『講座日本の伝承文学』10 三弥井書店)
 「真福寺蔵『説経才学抄』の『注好選』引用—持斎と持戒をめぐって—」(『唱導文学研究』4 三弥井書店)
 「真福寺蔵『説経才学抄』の標題説話—『三宝感応要略録』とかかわって—」(『伝承文学研究』54 三弥井書店)

- 藤巻 和宏 「『長谷寺密奏記』の諸本と注記」(『古典遺産』54 2004.9)
「南都系長谷寺縁起説の展開—『建久御巡礼記』、『諸寺建立次第』、護国寺本『諸寺縁起集』の検討から—」(『巡礼記研究』1 2004.12)
「東大寺四聖本地説の成立」(『伝承文学研究』54 2004.12)
「近世の空海遺告注釈書・随心院蔵『御遺告秘釈』について(上)—乾巻翻刻と随心院の遺告関係資料—」(『随心院聖教と寺院ネットワーク』2 2005.3)
- 藤本 成男 「正法眼蔵の「自然」—その意味するもの」(『プロブレマティーク 文学/教育5』 2004.7)
「正法眼蔵の身心論」(『言語表現研究』 21 2005.3)
- 布施 義高 「「理円」と「事円」」(『印度学仏教学研究』53-2 2005.3)
- 朴澤 直秀 『幕藩権力と寺檀制度』(吉川弘文館 2004)
- 北條 勝貴 「大殿祭にみる忌部の祭儀実践—木鎮め祭儀と屋船命—」(『日本文学』53-5(特集:古代文学における〈環境〉) 2004.5)
「古気候・漢籍・神觀念—考古学/歴史学の協働における問題点—」(古代考古学フォーラム2004〈古代の社会と環境〉資料集『開発と神仏とのかかわり』帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会 2004.10)
「〈ケガレ〉をめぐる理論の展開」(服藤早苗・小嶋菜温子・増尾伸一郎・戸川点編『ケガレの文化史—物語・ジェンダー・儀礼—』森話社 2005.3)
「死と向きあうこと—清め塩をめぐって—」(服藤早苗・小嶋菜温子・増尾伸一郎・戸川点編『ケガレの文化史—物語・ジェンダー・儀礼—』森話社 2005.3)
- 前田 壽雄 「證空における救いの構造—行門、觀門、弘願を中心として—」(龍谷大学真宗学会編『浄土教思想の研究—真宗学論叢8—』永田文昌堂 2004)
「證空と親鸞における比較思想論的研究(二)—他力論について—」(『西山学会年報』14)
「證空における法界身論」(『印度学仏教学研究』53-2)

「永代経の歴史と他宗との比較からみた意義」(中西智海遍
『真宗永代経全書』 四季社 2004)

- 松尾 剛次 『忍性』(ミネルヴァ書房 2004)
 編著『叡尊・忍性』(吉川弘文館 2004)
 「興正菩薩叡尊御教誠聴聞集」訳注監修(『日本仏教総合研究』
 2 2004.5)
 「中世における死と仏教」(『死生学研究』2004年秋号 2004)
 「中世の山形—山寺・慈恩寺—」(『山形大学都市・地域学研究所公開講座 山形の魅力再発見パート2 報告集』坂部印刷
 2004)
 「異国への架け橋 —海外学究生活奮闘記」(『Agora』36-1
 2004)
 真宗インタビュー「親鸞と中世都市鎌倉」(『真宗』 2004
 「叡尊寿像の背後に見えるもの」(『本郷』52 2004)
 「鎌倉仏教の再発見」(『本郷』56 2005.3)
- 松本 信道 「宝誌像の日本請来の背景について」(『駒澤大学文学部紀要』
 63 2005.3)
 「『靈異記』下巻第十九縁補考」(『駒澤大学佛教文學研究』8
 2005.3)
- 水上 文義 「『書写山真言書』について」(『平安仏教学会年報』3
 2004.12)
- 三角 洋一 「『源氏物語』に見る女性と仏教」(『解釈と鑑賞』2004.8)
 「『七天狗絵』略注(一)」(『超域文化科学紀要』9 東京大学
 総合文化研究科 2004.9)
 「『七天狗絵』の顕教諸宗の専用語をめぐって」(『武蔵野文学』
 52 武蔵野書院 2004.11)
 「『七天狗絵』における顕教の扱いをめぐって」(『国語と国文学』
 2004.12)
- 道元 徹心 「『観心略要集』撰述者の再検討—Nグラムの研究方法を通し
 て—」(『行信学報』17 2004.5)
 「『妙行心要集』は源信の撰述に非ず。—『往生要集』との引用

- 文の比較を通してー」(『真宗研究』49 2005.1)
 『妙行心要集』の思想的特色について」(『龍谷大学論集』465
 2005.1)
- 皆川 義孝 「第三章 近現代」「第五章 境内図」(新修『門前町史』資
 料編2 総持寺 門前町史編さん委員会 2004.3)
 「考古学のための梅花無尽蔵・蔭涼軒日録解説」(『中世考古学
 文献研究会会報』3 2004.12)
- 蓑輪 顕量 「台湾の現代仏教と道教信仰」(共著『人間文化』19 愛知学院
 大学人間文化研究所 2004.9)
 「韓国仏教現状調査ー禅院を訪ねてー」(『禅研究所紀要』33 愛
 知学院大学禅研究所 2005.8)
- 宮城洋一郎 「般若寺文殊菩薩像造立願文について ー非人救済の場をめ
 ぐってー」(頼富本宏編『聖なるものの形と場』法蔵館
 2004.6)
 「利波臣志留志に関する一考察」(根本誠二・サムエルモース編
 『奈良仏教と在地社会』岩田書院 2004.11)
- 宮澤 正順 「中国の思想と文学における無常観」(『小野塚幾澄博士古稀記
 念論文集ー空海の思想と文化ー』2004.1)
 「道教における人間の気・土地の気・食物の気について」(『宮
 林昭彦教授古稀記念論文集ー仏教思想の受容と展開ー』
 2004.2)
 「曇鸞『調気論』の注解者王邵と聖武天皇『雑集』中の王居士
 の関係」(『佐藤成順博士古稀記念論文集ー東洋の歴史と文化
 ー』)
 「空海の『三教指歸』を読む」(『大法輪』6月号)
 「道教と密教」(『北条賢三博士古稀記念論文集ーインド学諸思
 想とその周延ー』)
 『法然上人伝記』(「醍醐本」と義演准后について」(『高橋弘
 次先生古稀記念論文集ー浄土学仏教学論集ー』)
 「道教における瞑想について」(『印度学仏教学研究』53-1)
 『蕪村・一茶・漱石と浄土信仰』(明德出版社)

- 柳沢 正志 「実導仁空の浄土教学 —特に天台教学との関わりを中心に—」(『東洋の思想と宗教』22 2005.3)
 「宝地房証真撰「三大部私記」の研究(三)」(台門研究会共同執筆『論叢 アジアの文化と思想』13 2004.12)
 「澄憲の念仏思想について」(『印仏』53-2 2005.3)
- 山崎 龍明 「親鸞における人間の研究 —親鸞の煩悩論—」(『武蔵野大学仏教文化研究所紀要』20 2004.10)
 「真宗者の家族論 —仏教、人間、家族—」(『日本仏教学会編』2004.11)
 「仏教者の平和論 —善と正義の陥穽—」(『平和と宗教』庭野平和財団 2004.12)
- 山下 立 編著・秋季特別展示録『戦国・安土桃山の造像—仏像彫刻・懸仏編—』(滋賀県立安土桃山城考古博物館)
 「戦国・安土桃山の造像—仏像彫刻・懸仏編—展覧会図録補訂」(『滋賀県立安土桃山城考古博物館紀要』13)
 編著『黒瀬の神仏習合遺品—神像狛犬・懸仏—』(広島県黒瀬町史編さん委員会)
- 山田 昭全 「平家物語に描かれた女性と仏教」(『国文学 解釈と鑑賞』69-6 2004.6)
 「山家心中集小考」(『山家心中集』(妙法院刊 2004.10)
 「西行と自然」(『仏教文化学会紀要』13 2004.11)
- 山田 雅教 「六角堂夢告 私考」(『真宗研究』49 2005)
 「中世の真宗における和朝の連坐像」(『同朋大学仏教文化研究所紀要』24 2005)
- 山田 雄司 「『木造記』の形成」(藤田達生編『伊勢国司北畠氏の研究』吉川弘文館 2004.8)
- 吉田 一彦 共著『改訂 日本古代史新講』(梅村・神野編 梓出版社)
 「『日本霊異記』の史料的价值」(小峯・篠川編『日本霊異記を読む』吉川弘文館)
 「行基と霊異神験」(速水侑編『日本の名僧 行基』吉川弘文

- 館)
- 「解明進む聖徳太子の史実」(『東京新聞』 2004.5.11)
- 「日本における神仏習合思想の受容と展開 —神仏習合外來說(序説)—」(『仏教史学研究』 47-2)
- 吉村 誠 「中国唯識諸学派の称呼について」(『東アジア仏教研究』2)
- 「円測の三転法輪説について」(『BUL GYO HAK YEON GU』
〔仏教学研究、韓国〕9)
- 「基の三転法輪説について」(『印度学仏教学研究』 53-2)
- 米山 孝子 「仏教文学と現世利益—観音説話を通して—」(『大正大学研究論叢』 12 2005.1)
- 「行基説話伝承考—行基伝承から空海伝承へ—」(『大正大学研究紀要』 90 2005.3)
- 「昆陽寺蔵『行基菩薩行状絵巻』第五について」(『國文学踏査』 17 2005.3)
- Ranjana Mukhopadhyaya 「立正佼成会の教義における根本仏教および法華經の一乗思想の融合とその理念の社会的実践」(『中央学術研究所紀要』 33 2004.12)
- 渡辺麻里子 『曜光山月山寺史』(共著 月山寺 2004.7)
- 「善通寺蔵鉄眼版一切經について」(『善通寺教学振興会紀要』 10 2003.12)
- 「高野山真別処蔵了翁寄進鉄眼版一切經について」(『黄檗文華』 123 2004.6)
- 『尊談』における入重玄門説について」(『天台学報』 46 2004.11)
- 「論義書『尊談』の意義——伝忠尋撰『七百科條鈔』との関係から——」(『印度学仏教学研究』 53-1 2004.12)
- 『鷲林拾葉鈔』記事対照表(五)」(『論叢 アジアの文化と思想』 13 2004.12)